



写真-1 住吉川上流の水車場（水車滝壺跡）を背後の山道から撮影（令和6年4月）

■ 住吉川上流の水車場遺構を訪ねて

写真-1 は、かつて住吉川上流にあった水車場の一つ・五輮場に残る水車場遺構を撮ったものです。これまで、水車産業や水車場についてまとめてきましたが、やはり現地の状況を見ないと理解が浅いままになってしまいます。ということで、ネット情報を頼りに住吉川の上流にある水車場遺構の現地調査に行ってきました。

古い地図には、七輮場・八輮場といった水車に因む地名が見え、このほか四輮場・五輮場と呼ばれた所もありますが、現在の地図にはそれらの記載がありません。ネット記事によると「石臼が無造作に転がっている…」とのことですが、イノシシに遭遇しないかといった不安も抱えながら現地へ。

令和6（2024）年4月中旬の日曜日に、JR住吉駅前バス停から住吉台くるくるバスに乗り、同朋住吉台こども園前バス停で下車、そこから徒歩数分で今回の目的地である五輮場跡の入り口・東谷橋（写真-2）に着きました。そこには、「水車小屋跡」と「旧五輮場」と書かれた表示板が立っていました。橋の右岸側から対岸を見ると、草で覆われた石積みが何となく水車場の雰囲気醸し出しています。

東谷橋を渡り、山道を少し登ると廃屋があります。水車場の管理棟だったようです。さらに進んで落石防護網で覆われた石積み擁壁の横を通り過ると、「1号地」と書かれた表示板が立つ平地に着きます。



写真-2 住吉川に架かる東谷橋を右岸側から撮影



写真-3 この山道の先に廃屋（管理棟跡）がある



写真-4 落石防護網で覆われた石積み擁壁

■ 旧五輮場 1 号地の水車場遺構

1 号地は草が刈られているので、石積みの遺構がよくわかります。平地の中央に石積みの水路（写真-5）があり、その横に「水車滝壺跡」と書かれた表示板が立っています。

滝壺は、水車を回した水が落ちる所で、その深さは 50cm ほどです。滝壺の水の排出口（写真-6）も残っています。また、背後の山道沿いに水車への導水路跡（写真-7）があります。この導水路から木樋（きどい）を通して水を水車の上に流し、落とした水で水車を回します。水車を回した水は滝壺から排出口を抜けて次の水車場に。



写真-5 1 号地の水車滝壺跡



写真-6 1 号地の滝壺の水の排出口



写真-7 水車への導水路跡

■ 旧五輮場 2 号地の水車場遺構

1 号地からさらに山道を少し登っていくと 2 号地に着きます。ここも中央に水車滝壺跡がありますが、滝壺の深さはおよそ 2m もあり、石積みの地下水路になっています。

滝壺の周辺には、数個の石臼が転がっていました。背後の石積み擁壁の上部に導水の引き込み口があり、そこから木樋で水を流して水車を回すようになっています（写真-9～12 参照）。

水車を回した水は滝壺に落ち、矩形断面の短い石積みの排水路を通して排水口から排出され、1 号地の水車場へ流れて行きます。

なお、本テーマに関係はありませんが、2 号地の近くの沢には透過型砂防堰堤（写真-8）がありました。



写真-8 2号地近くにある透過型砂防堰堤



写真-9 2号地の水車場遺構全景

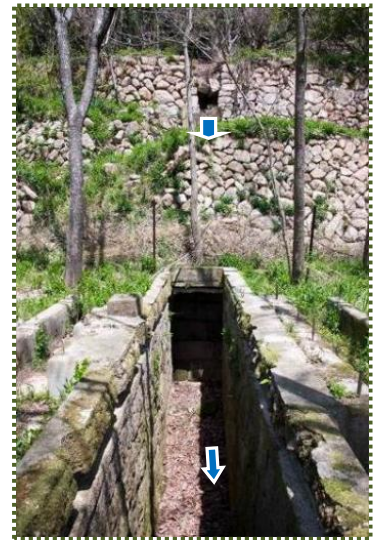


写真-10 2号地の水車滝壺跡
上方の石積み擁壁の穴から出た水が
木樋を通して水車を回す。



写真-11 滝壺の排出口から続く水路



写真-12 2号地滝壺の水の排出口

■ 旧五輮場 3号地の水車場遺構

2号地から2分ほど山道を登ると3号地に着きます。ここも草が刈られていてスッキリしていました。平地の中央に水車滝壺跡があり、その横に「水車小屋跡」と書かれた表示板が立っていました。その傍の建物の基礎と思われるコンクリートから鉄筋が4本突き出ていました。



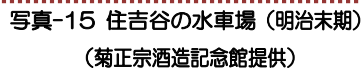
写真-13 3号地の水車滝壺跡



写真-14 滝壺横の水車小屋跡

※ 1号地から3号地の名称は、水の流れからいうと逆です。

この写真の水車場跡が五輪場にあるかも、ということで現地を歩きまわりましたが、じっくりいくような場所は見当たりませんでした。ただ、木樋の状況からすると、写真の水車場は住吉川の左岸側に設けられたものと思われます。



この日は雲一つない快晴だったため、しっかり日
焼けしてしまいました。4月の紫外線は意外ときつい！



祭神が、深江の大日靈女（おおひるめ）神社と同一であるところから
出た言い伝えとか。



境内にある「水神宮」と刻まれた石碑(写真-18)は、水車仲間からの信仰があつかった「水神宮社」の祠が朽ちてしまったため、その代わりに建てられたものです。傍に石臼が1基置かれています。

野寄村には昭和初期まで多くの水車と水路がありましたが、今では水車はすべてなくなってしまい、すべての水路は埋められるか蓋を掛けられています。

境内の南端にある駐車場に並べられた8基の石臼(写真-17)が、往時を偲ばせてくれます。



写真-17 大日女尊神社境内の南端に並ぶ石臼



写真-18 「水神宮」碑の傍に石臼

■ 復元された「灘目の水車」

水車を回すための水路の水は、平成7(1995)年1月の阪神・淡路大震災で断水した際、生活用水として大いに役立ったそうです。

震災後、地元では水路の保存とその象徴である水車の復活を望む声が高まり、平成14(2002)年、神戸市東灘区住吉山手4丁目の山田区民会館の傍に山田太郎車・次郎車と名付けられた大小2基の水車「灘目の水車」が復元されています。

この地域の水路は、当時の水車を回すために住吉川の上流で取水した水を流すためのもので、今も清流が町の中を流れています。水車小屋は桁行きが10間(≒18m)以上もある大きなもので、水車の直径が3間(≒5.4m)もあり、水車は真ん中に据えられて、屋根の上から木樋で引き込まれた水の落ちる力で回り、水車の両側には水車と連動して動く杵があり、その下に石臼が埋め込まれています。

水車を利用して作られた菜種油や酒米は大変良質のもので、そのほとんどが江戸へ送られ「灘目油、灘目酒」として武家を中心にもてはやされていたそうです。

また山田区民会館の東を通る有馬道は、石材の積み出しや水車へ往復する牛車が頻繁に通る、そのため雨降りにはぬかるみ、往来は困難を極めていました。

見かねた山田在住の植田庄兵衛翁が有馬道の西側の田圃をすべて買い上げ、道路用地として住吉村に寄贈、これを受けて、明治20(1887)年にめでたく村道第1号が山田から呉田に新設されました。当時、翁は75歳の長寿だったことから、この道を「千歳道(ちとせみち)」と命名したそうです。



写真-19 山田太郎車・次郎車



写真-20 山田太郎車・次郎車

■ モノローグ

精出せば 凍る間もなし 水車 (みずぐるま)

これは『禅林世語集』に収められている江戸時代中期の俳人・松木珪琳の句です。滔々と流れる水に沿って回る水車は厳冬の中にあっても凍る事がない、転じて、一生懸命働けば（精出せば）不都合が起きる（凍る）間もないという意味です。つまり、回り続ける水車の如く仕事に精を出そうということですが今の時代には受け入れられそうにありません。

令和 6（2024）年 4 月から働き方改革の一環として建設業においても時間外労働（残業）に上限が設けられました。それ自体は良いことなのですが、若手技術者の減少、深刻な人手不足、適正な工期設定、施工時期の平準化、業務の ICT 化等々の諸課題がからんでいるので、どこかにしわ寄せがくるのでは、と危惧しています。

オドリコソウ（踊子草）

シソ科オドリコソウ属の多年草。野山や野原、半日陰になるような道路法面に群生する。高さは 30～50cm くらいになり、葉は対生する。花期は 4～6 月。花は唇形で上唇は兜型、下唇は突き出して先端は 2 つに分かれた、白色またはピンク色で、数個輪生状態になって茎の上部の葉腋に数段つける。和名の由来は、花が輪生したようすが、笠をかぶって踊る踊子に似ていることによる。水車場跡や山道沿いに群生していた。



写真-21 オドリコソウ

【参考資料】

- 1 『住吉川の水車遺構散策マップ』 サスティナブルなひと、生活クラブ
<https://hyogo.seikatsuclub.coop/news/detail.html?nid=10000012516>
- 2 『六甲山中の巨大水車の大工業地帯』 月刊風まかせ HP 令和 5 年 2 月
<https://kazemakase.jp/2023/02/rokko-suisha/>
- 3 『東灘歴史散歩』 田辺真人 平成 10 年 6 月新訂第 2 版
- 4 『大日女尊神社』 兵庫県神社庁 HP
<https://www.hyogo-jinjaicho.com/data/6301016.html>
- 5 『月刊建設 第 67 巻 第 10 号』 一般社団法人 全日本建設技術協会 令和 5 年 10 月
- 6 『法話の窓』 大本山妙心寺 HP 平成 30 年 1 月
<https://www.myoshinji.or.jp/houwa/archive/20181-1>
- 7 『Yahoo! 知恵袋』 平成 19 年 12 月
https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1013995220
- 8 『オドリコソウ』 フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

※発行：令和 6（2024）年 6 月 『ひょうご水百景』 No.199

改訂：令和 8（2026）年 8 月 『ひょうご水百景』 No.199